ﾍﾞﾛ毒素検出(ELISA 法)	8128000
	担当部署
ﾍﾞﾛ毒素	微生物

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		患者自身が採取する場合は良質の検体が採取できるように適切な採取・保存方法を十分に説明し協力を求める
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*7.特殊細菌→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		・本キットの大腸菌ベロ毒素（VT）の検出限界は、VT1 では 7pg/ウェル及び VT2 では 15pg/ウェルであるため、検体中の VT1 あるいは VT2 が検出限界未満の場合は、本キットで陰性を示す。 ・直接糞便法で陰性であっても、腸管出血性大腸菌感染を否定できない。直接糞便法はブロス法より感度が劣るため、腸管出血性大腸菌感染が疑われる場合には、同一検体について直接糞便法より感度が高いブロス法により再度本キットで検査すること。 ・本キットで大腸菌ベロ毒素陰性と判定されても、腸管出血性大腸菌の感染を否定できない。他の関連検査及び臨床症状等を総合的に検討して判断すること。 ・VT1 と志賀赤痢菌（Shigella dysenteriae 血清型 1）の産生する志賀毒素はほとんど同一のアミノ酸配列を有するため、検出可能な量の志賀毒素が検体中に存在する場合は、本キットで陽性を示す。 注：Citrobacter freundii あるいは Enterobacter cloacae は VT 類似物質を産生するという報告がある。
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	該当なし
検体採取の特別なタイミング	特になし

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	糞便	細菌　便容器４	なし		
2					
3					

4					
5					
6					
7					
8					

検体搬送条件	室温 採取後直ちに提出
検体受入不可基準	検査ラベルがない検体
保管検体の保存期間	2 週間（再検査・追加検査は要連絡）

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部
測定時間	1～2 日
生物学的基準範囲	陰性（－）
臨床判断値	該当なし

基準値				単位	なし
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし

パニック値	高値	該当なし
	低値	該当なし
生理的変動要因		該当なし
臨床的意義		腸管出血性大腸菌（enterohemorrhagic Escherichia coli：EHEC）は、出血性大腸炎や溶血性尿毒症症候群（HUS）の患者から分離されている。 これらの患者の糞便中から最も多く分離される EHEC 株は大腸菌 O157：H7 だが、EHEC 感染症の発症に関係している EHEC 血清型はその他に数十種類あると報告されている。全ての EHEC 株は、志賀毒素様毒素（SLT）またはベロ毒素（VT）と呼ばれる細胞毒素を産出する能力を有しており、この毒素が EHEC 感染の病原因子であることが知られている。本キットは、EHEC の産生する大腸菌ベロ毒素Ⅰ（VT1）及び大腸菌ベロ毒素Ⅱ（VT2）と特異的に反応するマウス由来のモノクローナル抗体をマイクロウェルに固相化した ELISA 法を原理としている。 本キットは、全ての EHEC 株が共通に産生するこの感染症の病原因子大腸菌ベロ毒素を検出することが可能なため、従来法と比べ EHEC 感染のより特異的な検査として位置付けられている。また、本キットは、EHEC 感染患者の糞便を培養後に検出する他、培養しない糞便から直接大腸菌ベロ毒素を検出できるように開発したキットであり、直接糞便法の場合、検体の調製から判定までに要する時間が約 3 時間と短いため、EHEC 感染の迅速診断が可能となる。以上のことから、本キットは EHEC 感染の診断の指標として有用で

	ある。 「大腸菌ベロ毒素キットオーソ VT1/VT2」